

アセスメントシートを用いた尿道留置カテーテル早期抜去に向けての取り組み



大崎市民病院岩出山分院 看護部 高橋幸枝 加藤一枝

【はじめに】

当病棟は入院患者の多くが高齢者であり、様々な要因で尿道カテーテルを必要とする場合も多い。その後、必要がなくなった後も抜去に至らず留置期間が長期化している傾向が見られていた。「カテーテル関連尿路感染の予防のためのCDCガイドライン2009」より、適正使用として「適切な適応に限りカテーテルを挿入し必要な期間だけ留置する」とあり早期抜去を勧告している。

【I.目的】

アセスメントフローシートおよびアセスメントチェックシートを活用することで、早期抜去に対するアセスメントの意識付けが行えることを目的とし検証した。

【VI.結論】

シートを使用したことによって、尿道カテーテルの早期抜去ができるかアセスメントを行うきっかけとなった。アンケートの結果から、意識付けが出来たとの結果が示され、シートの活用は有用であったと考えられる。今後も、引き続きアセスメントを意識付けし、早期抜去が出来るよう働きかけていく必要があると考える。

消滅ありがとうございました



【II.方法】

1. 研究期間 2014年1月1日～12月31日
2. 病棟看護師20名を対象にフローシートおよびチェックシートの使用方法説明
3. シート使用前後に病棟看護師へアンケートによる意識調査実施
4. 入院後、尿道カテーテル留置した患者を対象とし留置した時点でチェックシートを作成
5. アセスメント開始日は留置日を含め5日目からとし、当日の受け持ち看護師がアセスメントを行いチェックシート記入開始
6. 抜去した時点で調査終了

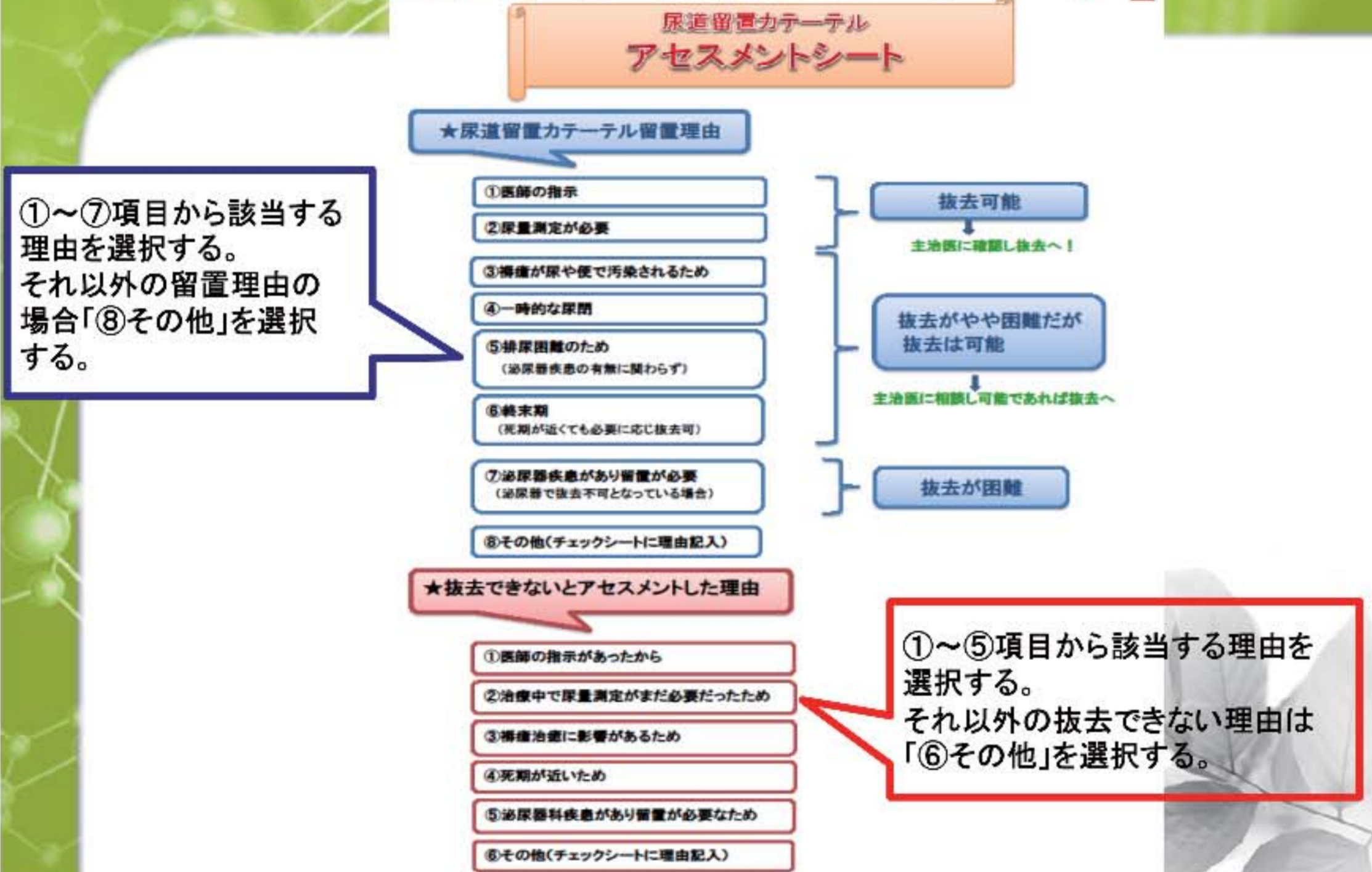
【III.倫理的配慮】

本研究の目的、方法、趣旨を口頭にて説明し、アンケートの回収をもって同意を得たとした。

【V.考察】

シート使用前は、シートの使用により意識付けができ留置期間が短くなることと考えられていたがシート使用後の留置期間がシート使用前と比較し長期となった。これは、尿閉による留置では抜去が困難なケースも多く、さらに入院期間も長かったことも影響を受けた要因の一つとなり、早期抜去に至らなかったと考える。シート使用後の意識付けが出来なかったという意見もあったが、シートを使用し、アセスメントの機会を設けたことにより、アセスメントを行う意識付けの効果は得られたと考える。

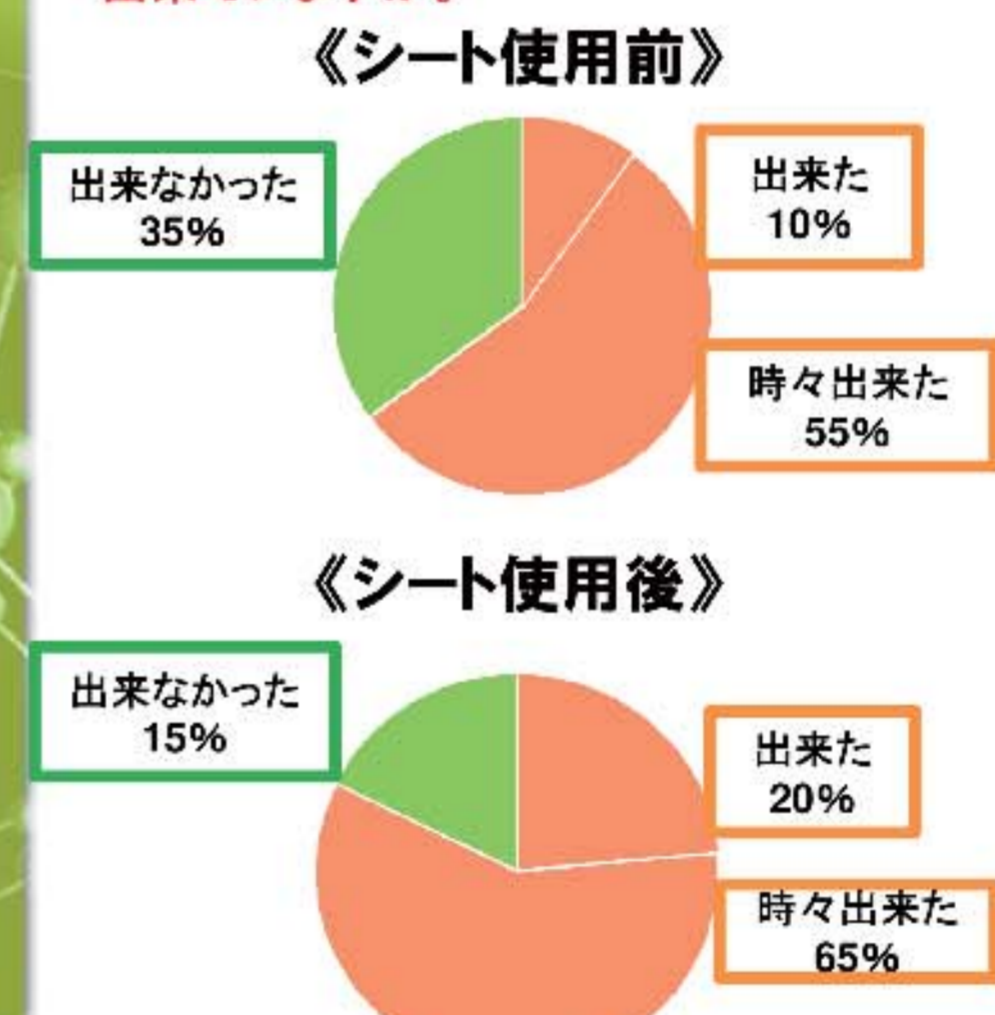
「アセスメントフローシート」



病棟看護師アンケート調査結果

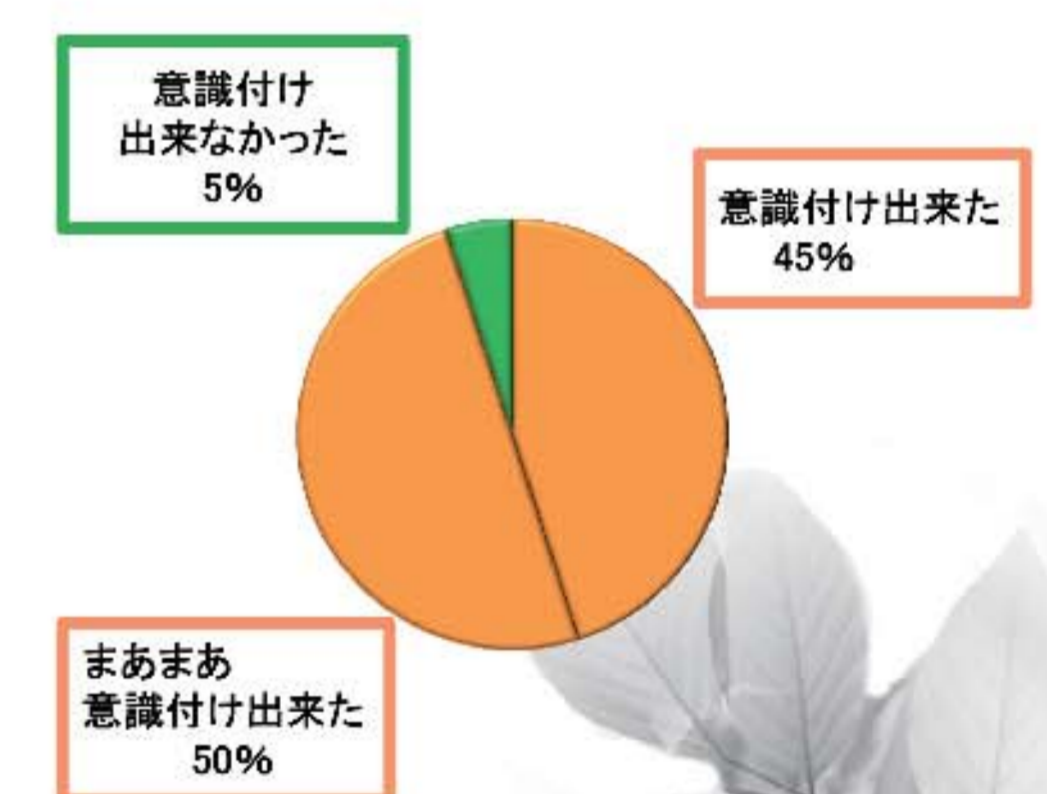
《シート使用前後共通の質問》

① 尿道カテーテルが留置されている患者を受け持った時に抜去可能かアセスメントが出来ますか。



《シート使用後質問》

② シートを用いた事で尿道カテーテル早期抜去に向けての意識付けになったと思えますか。



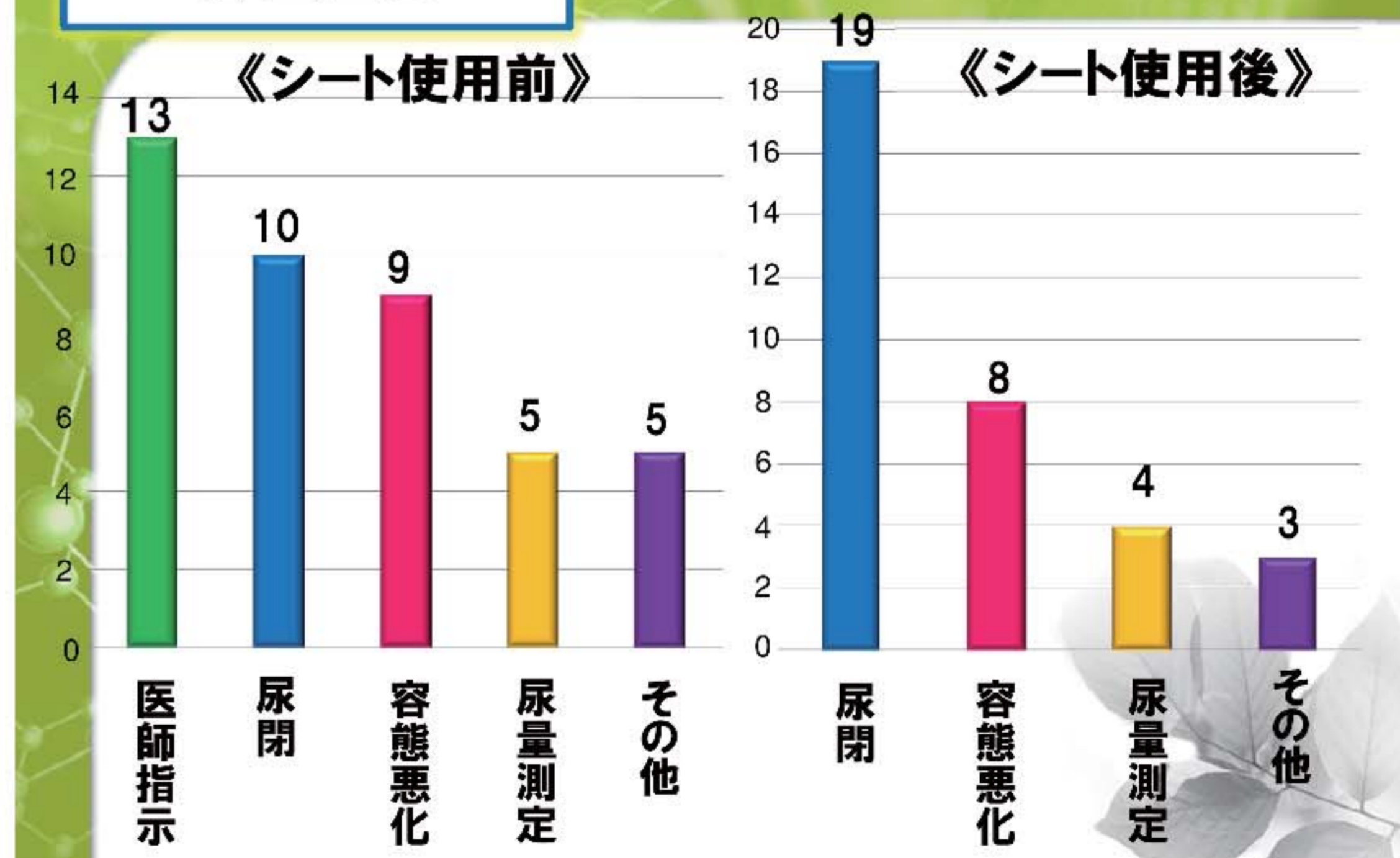
「アセスメントチェックシート」

記入例 □□□号室 ○○ ○○様 留置日: 10月 1日

◆尿道カテーテル留置理由(アセスメントフローシートの番号記入) → (①~⑦) (その他の理由記入: ⑧(留置理由を記入))

留置日	アセスメント実施(○)	アセスメント理由(アセスメント理由番号記入)	抜去した場合(抜去と記入)	実施サイン
10月1日	実施	実施なし		
2日	実施	実施なし		
3日	実施	実施なし		
4日	実施	実施なし		
5日	実施	実施なし	①~⑥選択した番号記入	000
6日	実施	実施なし		
7日	実施	実施なし		
8日	実施	実施なし		
9日	実施	実施なし		
10日	実施	実施なし		
11日	実施	実施なし		
12日	実施	実施なし		
13日	実施	実施なし	抜去	

留置理由



【IV.結果】

《シート使用前》尿道カテーテル留置患者数:42名、平均留置期間:19.7日、平均入院期間:29.6日、留置理由は「医師指示」が一番多かった。

《シート使用後》尿道カテーテル留置患者数:34名、平均留置期間:26.9日、平均入院期間:40.4日、留置理由は「尿閉」が一番多かった。

《シート使用前後共通の質問》「尿道カテーテルが留置されている患者を受け持った時に抜去可能かアセスメントが出来ますか」に対し、シート使用前「出来た・時々出来た」65%、「出来なかった」35%。シート使用後「出来た・時々出来た」85%、「出来なかった」15%となった。

《シート使用後の質問》「シートを用いた事で尿道カテーテル早期抜去に向けての意識付けになったと思えますか」に対し、「意識付けできた・まあまあ意識付け出来た」95%、「意識付け出来なかった」5%となった。

シート使用前 シート使用後

